

東久留米市緑の基本計画等検討部会 会議録

1. 会議名 第8回東久留米市緑の基本計画等検討部会
2. 日時 令和4年11月15日(火) 午前9時30分から12時00分
3. 場所 市役所7階 704会議室 (Microsoft Teams 併用)
4. 出席委員氏名 (敬称略) 杉原弘恭 (部会長)、水戸部啓一、
菅谷輝美、土屋守久、下村央行、高橋喜代治、
大塚ちか子、豊福正己、板倉正弥、吉川雅継
5. 欠席委員氏名 (敬称略) なし
6. 事務局職員名 環境政策課長、緑と公園係長、計画調整係長、計画調整係主事、
コンサルタント会社 (アジア航測株式会社)
7. 傍聴人 0名
8. 議題
 - (1) 第7回検討部会会議録 (案) の確認 (資料1)
 - (2) 緑の基本計画等策定について
 - ・素案の確認 (資料2-2)
 - ・資料編の検討 (資料2-3)
 - ・コラムについて (資料2-4)
 - (3) その他
 - ・次回の日程について (参考資料1)
9. 配布資料
 - 第7回検討部会会議録 (案) 資料1
 - 第7回検討部会における合意事項と第8回検討部会における協議事項..... 資料2-1
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 素案..... 資料2-2
 - 部会員意見と対応方針 (案) 資料2-2 別添
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 資料編..... 資料2-3
 - 気候変動対策と水質調査について..... 資料2-3 別添1
 - 気候変動適応計画 目次..... 資料2-3 別添2
 - 東久留米市第三次緑の基本計画・生物多様性戦略 コラム..... 資料2-4
 - 第三次緑の基本計画等策定スケジュール..... 参考資料1

10. 第8回東久留米市緑の基本計画等検討部会

(1) 第7回検討部会会議録(案)の確認

【部会長】

- ・会議録をご確認いただき、加除修正等あればお知らせいただきたい。

【委員】

- ・議事録の訂正が間に合わなかった。事務局には提出済みである。

【部会長】

- ・他はよろしいか。なければこれを追加した後、委員の氏名を消して公開していただく。

(2) 緑の基本計画等策定について

【部会長】

- ・今回は、審議会で素案を確定していただいたので、その簡単な紹介と、コラムと資料編についてご検討いただきたい。
- ・計画の構成、素案を含めて事務局から説明をお願いします。

【事務局(コンサルタント)等】資料2-1~2-2説明。

【部会長】

- ・前回、検討部会で原案として検討していただいたものを、ほぼ素案という形で審議会からご了承をいただいた。
- ・次にパブリックコメントの意見の対応という作業が発生するが、資料2-2別添の部会委員意見と対応方針について、各委員ご自身が発言されたことが反映されているか、念のためチェックしていただき、何かあれば事務局にお寄せいただきたい。その上で、パブリックコメントの前に調整した方がよいことや、まだ引っかかっていることがあれば検討したい。

【委員】

- ・素案6ページ、左下のさいかち窪の写真の中に矢印が入っている。これは削除した方がよい。
- ・ホトケドジョウの写真があるが、普通のドジョウではないか。前にも議論があった。ホトケドジョウの写真でなければ、写真を差し替えるという話だったと記憶している。

【委員】

- ・これは普通のマドジョウではないかという話であった。その後確認したのかどうか。

【事務局等】

- ・早急に確認して差し替える。

【委員】

- ・下里の氷川神社の辺りから西団地の辺りまでは、ホトケドジョウはいるが、最近は減っている。

【委員】

- ・ホトケドジョウは鼻の上にひげがあるので、それが分かるような写真を入れた方がよいと思う。

【部 会 長】

- ・他にいかがか。パブリックコメント前に修正できる所はあるか。

【委 員】

- ・資料2-3、資料編の70ページ、東久留米の全体図が載っているページで、全体の図が下の方へずれている箇所がある。

【委 員】

- ・素案の6~7ページの図の凡例に、「公園や住宅地など」とあるが、図中に自由学園もあるので、「公園や住宅地、学校など」としてはどうか。学校でも自然環境が豊かな所はいくつもあると思う。

【委 員】

- ・“など”に学校も含まれているのではないか。

【委 員】

- ・そのようにも考えられるが、学校も全体的に緑を増やしていこうという方向にあるとすれば、“学校”と入れた方が励みになるのではないか。

【部 会 長】

- ・二文字くらい入りそうなので、入れてはどうか。自由学園以外にも取り組んでいる学校はあると思う。
- ・左上の凡例の“公園や住宅地”の後ろに“、学校など”を加えるということで、よろしいか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・凡例の4つの環境の名前については、資料編に載っている「生きものの現況」の環境の種類と対応させているが、こちらでは人の生活に隣接した場所ということになっているので、「公園や住宅地、学校など」という名称で対応する。

【事務局 等】

- ・今の凡例名について、順番を「公園や学校、住宅地など」としてもよいか。

【委 員】

- ・その方がよいと思う。

【部 会 長】

- ・公的な順ということであろう。環境基本計画では学校は行政扱いになっているので、おっしゃる通りかもしれない。

【委 員】

- ・同じ図に写真が掲載されているヒバカリは、さいかち窪の方にはいるのか。

【委 員】

- ・ヒバカリは南沢にいる。小山緑地など割とあちこちにいる。
- ・アオダイショウの方が多い。

【委員】

- ・承知した。

【部長】

- ・では次に、コラムと資料編についてであるが、まずコラムから検討したい。
- ・コラムと資料編は、私と委員で修正できる所はしている。
- ・新規の追加として、気候変動との関係があまりにも少ないのではないかという審議会の意見を受け、審議会委員に地域振興と生物多様性についてのコラムを書いていただいた。審議会委員は、現在の環境基本計画の検討部会で部長もされている。
- ・水質のアンモニア態窒素についての原案を審議会委員にお願いした。これは用語集になるが、たたき台を作っていたので、それは委員に調整をお願いしたい。
- ・コラムを赤字等で修正した形になっており、右上枠に原案の作成者などが記載されている。
- ・コラム1は事務局で作成されたもので、語順や表現を柔らかくしたということである。コラム1はこれでよいと思うが、いかがか。

【委員】

- ・「湧水・清流保全都市宣言文」は目立つように四角などで囲むのはどうか。

【部長】

- ・よいのではないか。確かにメリハリが効いてよいかもしれない。事務局はいかがか。

【事務局等】

- ・承知した。

【部長】

- ・コラム2は私が書いた。図を一部修正し、古多摩川面に“がけを含む”というのを付け加えた。また、最後に“土”を入れた。
- ・例えば小手指ヶ原は武蔵野台地面みたいな話になってしまうし、所沢の辺りもそうであるが、江戸時代によりやく井戸を掘って、用水によって村を維持していた。台地面は火山灰が降り積もるので、植生は割と疎である。逆に古多摩川の溝の谷は、火山灰を川で流すので、むしろ上流からの土壌なので、比較的豊かである。そこが東久留米の特徴でもある。古多摩川面というのは学術的にはないが、非常に分かりやすいので、意見がなければこれでいかせていただければと思う。
- ・次にコラム3について、これは委員にお願いしている。

【委員】

- ・コラム3について伺いたい。前段の市内の生きものの種類の比較については、前回の見直しの時に、アジア航測が作ったデータや原文であるが、現在もこの5年前のデータのままでよいのか、そうでなければ、武蔵野学園に武蔵野についての100年前のデータがあるので、それと比較してどうかという位置づけをした方がよいのか。“このような種類の木は東久留米で残っていて、関東山地と共通である”というような、具体的なことを入れたが分かりやすいと思ったのだが、いかがか。

- ・もう一つは、今回、南沢湧水のデータがかなり出ているようなので、それについて具体的にに入れてはどうかと考えたのだが、いかがか。

【部 会 長】

- ・これは、環境に行政界はないので、一つの範囲であるということを強調するとともに、比較をするという内容であったが、作成は事務局と委員ということか。

【委 員】

- ・5年前の清瀬の植物との比較については私が書いたが、それ以外はアジア航測のものがもとになっている。

【部 会 長】

- ・この辺りはアジア航測でお願いできるか。

【事務局（コンサルタント） 等】

- ・承知した。

【事務局 等】

- ・清瀬市の比較は委員が書いて下さったということであるが、清瀬市とやり取りをした中で書いていただいたということか。

【委 員】

- ・そうではなく、清瀬の自然を守る会の方たちとやり取りをした。そこが主体になって「清瀬市の植物」という本を出しているのだから、そこは市も共通しているという認識である。

【事務局 等】

- ・清瀬市には、事務局からこのような内容で間違いはないかという最終確認はさせていただこうと思う。

【委 員】

- ・清瀬のデータは古くなっていて、この5年間でもものすごく変化している。清瀬市でも新たに調査をして、次はAPG分類で出すということでやり始めているので、今このように出すのがよいのかどうか分からない。いかがでしょうか。

【部 会 長】

- ・コラム4について、これは前回中間見直しで生物多様性戦略を入れた時に、生物多様性の解説をコラムと用語集で行ったときのものである。赤字は事務局で修正していただいたものである。これも一番下に“土”を入れている。
- ・生物多様性については用語集との絡みもあるので、何かあれば、後ほどでもご意見をいただければと思う。

【委 員】

- ・南沢緑地保全地域の写真は、もう少し良い写真を入れてはどうか。

【部 会 長】

- ・良い写真はあるか。探していただけるか。

【委 員】

- ・落合川最上流の湧水の写真も暗い。印刷の関係か。

【委員】

- ・春の新緑の時期であれば、少しは明るく見えるかもしれない。

【部長】

- ・委員の皆様で、良い写真をお持ちであれば提供いただきたい。
- ・コラム5は3枚ある。コラム5-1、委員の「我が町東久留米が大好き」というコラムは、中間見直しの第2章の最後のページにあった。このような過去の豊かな生態系を忘れずに、課題と方向に向かってというところで収まっていたが、今回はそこからもう一歩進んでいるはずなので、第2章「生物多様性戦略に向けた課題と方向性」の最後のページということになっている。
- ・8ページのコラム5は、審議会委員にたたき台で作っていただき、直していただいても結構ということであった。生物多様性と持続可能な地域づくりということで、社会経済活動とリンクした、環境経済社会が統合的に向上するということと、地域の生物多様性が絡んでいるということで、今回の第2章「生物多様性戦略に向けた課題と方向性」のコラム5はこれにして、委員と川嶋先生の文章は非常に資料価値が高いので、むしろ資料編に新規に収録する形にしてはどうかという提案である。まずはその建付けについていかがか。

【委員】

- ・委員の文章は素晴らしいので、資料編ではなく、やはりコラムとしてどこかに載せてはどうか。
- ・どちらかというとしり育てたい東久留米の環境なので、第1章の後ろに入れるのはどうか。

【部長】

- ・コラム3の近隣市との比較が入っていて、コラム2が土地の履歴というので、おかしくはないと思うが、一旦保留してもよいか。
- ・なぜ私は資料編がよいと思ったのか。コラム5-2を書かれた川嶋先生はもうお亡くなりになられたが、2014年に「向山緑地・立野川から始める地域学シンポジウム」を開催した時に、川嶋先生と長い付き合いであったことと、以前東久留米市にお住まいだったということで寄稿文を書いていただいた。その時は現地確認をしないで、シンポジウムにはそのまま入れた。
- ・その後、川嶋先生と現地調査に行った。旧道の浄牧院の入口の杉並木の参道は旧道から下に降りて行き、弁天川の石の橋がある趣のある景観だったが、旧道の下の新道、駅前からの広い道が横切って昔の面影はない。川嶋先生はショックを受けていた。右側の写真がその時の写真である。そのように場所の確認をするとともに、シンポジウムの時の寄稿文に加筆した文章がコラム5-2である。
- ・委員の文章は、少し魚にウエイトがあるが、川嶋先生の方は魚の他にヘビやカエル、昆虫、それからクワ、シイ、ムクなど、カバーの範囲が広く、資料価値があるので、

委員の資料価値の高い文章と共に川嶋先生の文章を、まとめて資料編にしてはどうかということである。

- ・先ほど保留にした、第1章の後に入れるという意見は、全然悪くないが、委員のコラムをここに入れて、川嶋先生のコラムをどこに入れるかという話である。

【委員】

- ・東久留米の人と自然のつながりや豊かな環境を我々は大事に守っていく、育てていかなければならないという、継承の意味でも重要なものである。それを単なる資料とするのは少し違和感があり、やはりこれは大事な記録として、本文の中でコラムの役割を果たしたらよいのではないかということである。

【部会長】

- ・元のページ案では、大体章節の始まりが右ページに来るように作られているので、委員と川嶋先生のコラムを裏表で1ページ差し込めば体裁が成り立つので、そのようにしてはどうか。

【委員】

- ・参考に申し上げる。前回載せていただいたが、このコラムの原稿が欲しいという人がいた。その人は東久留米が好きで、世田谷から越してきたらしいのだが、原稿が欲しい理由を聞くと、コラムのページを携帯で撮ったが、字が小さくてうまく撮れなかったということであった。
- ・それで、原稿をA3に伸ばして川に貼っておいたら、すごい反響だった。携帯で撮る人もいた。このような文章が硬い本に載っているのは珍しいと言われて、私はすごくうれしかった。

【部会長】

- ・T氏が委員であることが、なぜ分かったのか。

【委員】

- ・川に、写真に説明を付けた私の看板があるので、それで知ったらしい。

【部会長】

- ・私は「我が町東久留米が大好き」というタイトルが素晴らしいと思う。これは確かに資料編よりコラムがよいかもしい。

【委員】

- ・私はもう80歳で、80年東久留米に住んでいる。コラムを書く前に仲間に話を聞こうと思っても、仲間は皆亡くなっている。生き残ったのが私一人なので、ここで何か書いておかなければならないという発想で、コラムを書いた。

【委員】

- ・これは本当に素晴らしい価値があると私は思っている。

【部会長】

- ・では、委員と川嶋先生のコラムを裏表で1枚差し込むということではよろしいか。

【委員】

- ・実際のお名前を出してはどうか。T氏などにして出さない方がよいのか。

【事務局 等】

- ・川嶋先生の寄稿文の掲載については、許可を取っているのか。

【部 会 長】

- ・亡くなられる前は許可をいただいていた。

【事務局 等】

- ・ご親族等に許可をいただく必要はないか。

【部 会 長】

- ・そもそも、これはシンポジウムに間に合えば、この現地踏査をしたものを入れることになっていたが、シンポジウムに合わなかった。それで、印刷版には載せても構わないということで、本人から了解をいただいていたものである。
- ・名前はT氏とK氏にしてもよいのではないか。この文章は誰が書いたのかという、謎解きの面白さもあるかもしれない。

【委 員】

- ・内容が個人の思い出なので、書いた人を知りたいということがあるかもしれない。

【部 会 長】

- ・お名前出すことは、やぶさかではないと思う。

【委 員】

- ・川嶋先生のコラムの一番下の段落に、子どもの時の経験がどのように重要かということが書かれている。教育の場にいらした方なので、保育園の先生など、いろんな方に読んでいただいて、生かしていただくとよいと思う。

【事務局 等】

- ・委員から、コラムの反響が大きいというお話があった。まだ先の話であるが、成果版をホームページに公開するとき、例えば、コラムの所だけを見られるような形でページを用意してみようと思うが、いかがか。

【部 会 長】

- ・よいのではないか。コラム全部にアクセスできるというのではなく、例えば、“コラムより”という形にして、委員の文章が見られるという形であろう。

【事務局 等】

- ・緑の基本計画を全部見ていかないとコラムに到達できないのではなく、コラムだけをホームページから見られるようにするということである。見る方に選んでもらうというようなイメージである。

【委 員】

- ・そのやり方は、最近、このような報告書は全体を一括でダウンロードか、章ごとにダウンロードするという形になっているのは、学校教育などで使うときにもありがたい。コラムも同様ということであろう。

【部 会 長】

- ・コラム編だけのアクセスを可能にするということか。それはぜひお願いしたい。

【委員】

- ・その前に、この計画書は市民も読むものなので、もう少し読みやすく、分かりやすくというのがあ。例えば、審議会委員の文章は少し硬いと思う。

【部長】

- ・ご本人から、これはたたき台なので修正いただければと伺っている。
- ・審議会委員の文章は、委員に修文をお願いしたい。
- ・T氏、K氏とするか。委員、いかがか。

【委員】

- ・私はどちらでもよい。ただ、反響がすごいということには本当に驚いた。東久留米には長野や秋田など、田舎から来ている人も多いので、私の文章を読んで、自分が生まれた所と重なる部分があり、非常に興味があるらしい。

【委員】

- ・行政の資料として、個人名を出すことに不都合がないか。この場合はご本人が了解しているが、行政の方がどうなのか。
- ・写真の場合は提供者の名前が入っていたが、そうすると他のコラムについても個人名を載せるのかということになる。

【事務局等】

- ・行政としては差し支えないと考えている。

【委員】

- ・個人の名前を入れるのはこの2つのコラムだけでよいと思う。これは個人の思い出なので、個人の名前を出す。他のコラムは説明や解説のような内容なので、特に書いた人の名前を入れる必要はないと思う。

【部長】

- ・承知した。

【委員】

- ・書いた人の名前を出すとその人の責任になる。新聞社によるが、解説を書いた人の名前を出すのは、その人が全権を持ってこれを書いたということである。私はどちらでもよい。
- ・お二人の実名は出して、他のコラムも必要ということであれば出してもよいのではな

【委員】

- ・本人はよいと言っても、同姓同名の方がいて、その方に問い合わせがいくということもある。そこは大丈夫か。在住も書いてはどうか。

【事務局等】

- ・在住まで入れると個人情報になってくる。

【委員】

- ・コラムを誰が書いたか、計画の最後の頁に入れておけばよいのではないか。

【部 会 長】

- ・具体的には委員の場合、「東久留米市在住 昭和 20 年代生まれ」で止めておいて、執筆者を後ろに書くということか。

【委 員】

- ・こちらもないのではないか。写真もそうである。名前は一番後ろに載せている。

【部 会 長】

- ・在住はいらぬとして、昭和 20 年生まれ、昭和 15 年生まれなどの情報はどうか。

【委 員】

- ・いらぬのではないか。

【部 会 長】

- ・委員の文中にも 1950 年と入っているし、川嶋先生の文中にも疎開をして戦後戻ってきたという記述があるので、年代も入れなくてもよいだろう。
- ・コラムには名前を載せず、後ろに執筆者として載せるということにする。
- ・順番は、私は委員の方が先でよいと思う。コラム 5 の 3 本についてはそのようにする。

【委 員】

- ・審議会委員が書かれたコラム 5 について。これは素晴らしいと思う。中段に「気候変動対策にも重要な意味を持つ生物多様性についても、」とネイチャーポジティブのことが書いてあるのは、すごく重要なことだと思っている。これを東久留米に落としたところをもうすこし考えていただけたらと思っている。
- ・湧水があるのはよいと書いてあるが、湧水があるから何がよいのかというところが抜けている。湧水があると年間一定の水温があり、その周辺はどのような環境なのか、それから、南沢の保全地域等、それが具現化されていて、このようになっているとか、もう少し地域に落とした具体的なところを書いていただければと思っているが、いかがか。

【委 員】

- ・コラム 4 とコラム 5 は少し被る所である。コラム 4 では水温などについて書かれているが、コラム 5 のテーマとしては、もう少し大きな話をしようとしているのではないか。あまり似たようなことを書いてもどうなのかという気がする。
- ・いずれにせよ、マクロ的なものなので、もう少し東久留米までブレイクダウンはしたい。

【部 会 長】

- ・コラム 5 は審議会委員とやり取りしながら書いていただいた。これは第 2 章の最後のページになるので、緑の基本計画ではあるが、マクロ的な温暖化の話や生物多様性の話を書いていただいた。
- ・国では気候変動適応計画を策定しており、環境基本計画の方には入れなければならぬ

いので、こちらにも入れた方がよいのではないかということである。

- ・気候変動適応計画というのは、温暖化に対して、かなり現実的に、対処療法的に、環境等を適応させようという取り組みなので、環境基本計画よりも、緑の基本計画の方が近い。
- ・目次だけ抜粋した資料 2-3 別添 2 を見ていただきたい。これは令和 3 年 10 月に策定されたものであり、具体的に、対処療法的にやろうというのがこの計画である。第 3 節に自然生態系の話があり、原文は長いので付けていないが、表紙の上にある URL から環境省のホームページを見ていただくと、この計画の PDF があるので、ぜひ委員の皆様には第 3 節を御目通しいただきたい。陸域生態系、淡水生態系の辺りが東久留米に非常に関係しているので、この辺りを本当は盛り込められればということであった。
- ・これは結構意見もある所なので、計画に入れるべきだったと言っているわけではないが、少なくとも我々はこれを認識した上で今回の計画を立てているというところを持っていきたい。だから地域適応計画が一切どこにも出てこないというのは避けたいので、これも踏まえて今回の計画になっているという建付けにしたい。
- ・審議会委員のコラム 5 に関しては、その辺をある程度イメージして書いていただいている。今、委員が言われたのは、まさにコラム 4 で触れることなので、もし、必要であれば委員にコラム 4 をご修正いただければと思うが、いかがか。
- ・コラム 4 は生物多様性が中心ではあるが、生物多様性が生物保護だけではないのは分かっているので、そこに先ほどの地域づくりとの関係を少し書いていただいて、コラム 5 ではフレームとしてそれを確認するという、二重の建付けでも悪くはないと思う。

【委員】

- ・私は、審議会委員のコラムは、本当は計画の頭に近い方がよいのではないかと考えている。特にコラム 3 やコラム 4 の前にこれがあつた方が、どのような視点で書かれているかというのが分かる。
- ・それから今、学校教育では環境正義ということも言われている。審議会委員の文章には言葉では入っていないが、意味としては入っていると思う。

【部長】

- ・当初、審議会委員の文章は、第 1 章 1 ページの図の解説として入れてはどうかと思っていた。そうすると、雰囲気的にこの計画が取り組もうとしていることが、分かりやすいのではないかと思った。

【委員】

- ・本文として入れるのか。

【部長】

- ・ページ繰りとの関係もあるが、コラムである。

【委員】

- ・パブリックコメントは、12月であるが、来年の4月に最終のものを実際に手に取る時には、11月のエジプトと12月のカナダの会議を経ているので、このような部分が合った方が読みやすいのではないか。テキストとしても使いやすいと思う。

【委員】

- ・つながりが悪くなるのではないか。

【部長】

- ・当初はこの解説文を設けようということで、委員と話しており、ずいぶんやり取りをしたが、お互いバタバタしてそのままになってしまった。
- ・審議会委員に書いてもらった文章をここに入れようかと思ったが、図の仕組みをよりも踏み込んだ説明になってしまう。ただ、コンテキストは少し違うが、この図にある、温暖化、ヒートアイランド、大気汚染対策という大気の部分と、その下の緑地、雨水、湧水、生物多様性、水循環等とのつながりを踏まえてコラムを読むことができるので、悪くはないのではないか。

【委員】

- ・もしこの文章を生かすのであれば、コラムではなく、第三次緑の基本計画・生物多様性戦略の考え方として書いている、前段の文章のような感じになるのではないか。

【部長】

- ・だから今のところ、課題と基本方針という第3章の後がよいのではないかということである。

【委員】

- ・これを持ってくるのであれば、もっと前に入れるということになるし、なぜこれを入れるのかということである。

【委員】

- ・つまり、第三次緑の基本計画・生物多様性戦略策定に当たった基本認識のような文章だということであろう。地球のことを言っているので、いきなり東久留米で落とさないということであろう。

【部長】

- ・この図の前にコラムとして入れるのはどうか。

【委員】

- ・コラムという役割ではなくなってしまう。コラムはどちらかというと箸休めのようなもので、全体を何となく理解してもらうための文章である。このようにカッチリとしてしまうと、どちらかといえば本文として入れるものになる。

【部長】

- ・もし事務局で間に合うのであれば、前回の審議会でもコラムについてこのような意見をいただいたということで、本文に反映することはできるか。

【委員】

- ・それは厳しいかもしれない。

【事務局 等】

- ・これまでコラム1として載せていたものは、今後、この計画を進めていく東久留米の、自己紹介的な意味合いも含まれたものだと思うので、コラム1を最初に持ってこないということになると、それは大きな方向性の転換とも捉えられかねない。そこは慎重にご検討いただきたい。

【部 会 長】

- ・やはりコラム1は最初にあった方がよいということか。

【事務局 等】

- ・来るべきとは言わない。確かに生物多様性が非常に重要性を帯びてきているということは十分に理解している。一方で、「湧水・清流保全都市宣言」というのは、東久留米市の特徴みたいなものになるので、そこは慎重に検討したい。

【委 員】

- ・そういう意味では、ボトムアップでいくなればこれでよいのではないか。要するにコラム5は、考え方としてはトップダウンである。世の中がこうだから、東久留米も考えていかなければならないということである。コラム1の「湧水のまち・東久留米」というのがロードマップになっている。
- ・そういう意味で、適切な場所を考えるとすると、ボトムアップから来て、最後全体の動きとして捉えている、認識しているという、最後の方になると思う。

【委 員】

- ・私は逆だと思う。最初に生物多様性と、温暖化や経済問題も入ってくるので、これは前段で入れた方がよいと思う。先ほどの図の後に入れても違和感はない。その後、これまでの取り組みに流れるということであれば、世の中が変わっているというのが最初にあって、次にこれまでの取り組みが流れてきて、それを合わせて第2章に入って、それではどうなっているのかという流れになるのではないか。

【事務局 等】

- ・生物多様性をまず前段に持ってくるということは、世界の流れとして特に差し支えないと思うが、先ほどあったように、もしかしたら「湧水のまち・東久留米」というのがコラム1から書かれていることに対する違和感を持つ方もいらっしゃるかもしれないと思う。

【部 会 長】

- ・これは、素案の「東久留米市の水と緑の施策のあゆみ」とリンクしている。宣言なので、トップに来るのだということ。内容的に言えば、施策の歩みとリンクしており、一種の解説的な役割を果たしているということである。

【委 員】

- ・これと都市宣言はリンクすると思う。先に宣言しているので、その中で、世の中で言われてきているという、同列に入るのではないかという意味でもインパクトがある。

【部 会 長】

- ・ではコラム1はここにして、コラム2に審議会委員の文章を入れてはどうか。

【委員】

- ・これをコラムと言わなければ別に問題はない。

【部会長】

- ・しかし、もう本文はいじれない。パブリックコメントを反映して本文を修正するという方法はあるか。

【事務局等】

- ・このレベルの文章を追加するのは、パブリックコメントを踏まえた後でもなかなか難しい。

【部会長】

- ・委員がおっしゃったように、先駆的な取り組みだけど、現在はこういう風潮であるという流れはどうか。

【委員】

- ・審議会委員の高潔な文章が崩れてしまう。

【部会長】

- ・初めはもっと専門用語が出てきたので、それはリライトしていただいた。専門用語は、知っている人は内容をイメージできるので大変便利であるが、市民には分からない。
- ・リライトした時も今回も、たたき台なので本当に自由にしてくださいと快諾していただいているので、さらに委員に分かりやすくしていただくとよいのではないか。

【事務局等】

- ・コラムの中で、一点だけ行政として気になったのは、コラム4の一番最後、修正前は「水と緑を保全したいものです。」という締めくくりであったが、“土”を入れたということと、「増やしていきましょう。」というところである。水と緑と土を増やしていくために、行政として具体的にどうするのかという話になるのではないか。

【部会長】

- ・ではこれを元に戻すか。

【委員】

- ・「住宅地などの緑を増やしましょう」というのを入れるとよいのではないかと思った。生物多様性を意識して、庭の緑についてももう少し考えてはどうかということである。

【部会長】

- ・基本構想に“土”を入れた時も同じ議論になって、“土”を入れると新たな施策を市として講じなければいけないのではないかと、庁内からコメントがあったが、これは小学校の教科書にも載っている、誰でも知っていることで、それほど深い意味はないということで了解されたので、そこまで心配しなくてもよいかもしれない。

【委員】

- ・「身近な緑を増やしていきましょう。」ということであれば、市民が具体的にできることではないかと思った。「増やしていきましょう。」だけでは、何を増やすのかという

ことになる。一番簡単な緑だと思う。

【事務局 等】

- ・水を増やすということについてはどうか。

【委 員】

- ・樹木などが庭に入ってくると、当然、その水循環が回ってくるという考えで、別にどうしようということとは直接言っていない。
- ・そこから派生すれば、天水を大事にする等はあるかもしれないが、とりあえずは自分の家の庭やベランダなどの範囲である。

【事務局 等】

- ・“身近な”だけ入れていただければよいのではないか。

【部 会 長】

- ・「…緑と土を保全し、身近な緑を増やしていきましょう。」とする。

【事務局 等】

- ・8 ページについて、これは私の不勉強であれば大変申し訳ないが、「土地利用変化の脅威」という記述がある。環境汚染に関する脅威というのは良く分かるが、土地利用変化の脅威にさらされるという表現が少し引っかかる。

【部 会 長】

- ・これも専門用語である。IPCC や気候変動枠組み条約で、土地利用変化という用語がある。審議会委員はこの温暖化関係の用語として、土地利用変化という用語を使われているのであろう。確かに一般市民的な目線では、土地利用とは何かということになる。そこは委員にお願いしたい。

【委 員】

- ・これは相当ブレイクダウンしなければならない。

【部 会 長】

- ・ランドユース・ランドユース・チェンジ（土地利用、土地利用変化）および林業が、一つのカテゴリなので、それが CO2 の排出源として、国立環境研究所がとりまとめて、国の報告書に立目されている。

【委 員】

- ・要するに、温暖化という目で見ると、これは脅威だということである。例えば、森林をどんどん伐採して、宅地開発することは脅威である。でもそれは別の見方をすれば、そうではないので、それはもう少し、この意図をどのように考えるかで書き直す必要があるかもしれない。

【部 会 長】

- ・それをぜひお願いしたい。物事には必ずプラスとマイナスがあるので、良いことばかりではない。むしろリンケージが大事だと言っているのは、例えば、フロンガスがオゾン層に穴開けるのでフロンガスを禁止したが、代替フロンガスが温暖化に関与してしまうとか、緑の砂漠を増やそうとすると、地下水を吸い上げてしまって枯渇すると

か、一見良いことが必ずしもプラスではないということである。それが生態系のややこしいところである。

【委員】

- ・もしこれを独立させて何か作るならば、素案の11ページ、第3章「第三次緑の基本計画・生物多様性戦略」の前に入れるか。
- ・そうすれば、委員のご心配も解決できるのではないか。

【部長】

- ・中間見直しで委員の文章を入れた時は、こういうことを忘れずに、まちを愛してやっていこうということであったが、今回はこれを踏まえた上で、地球規模の話や、国における話を、第2章「緑の基本計画生物多様性戦略へ向けた課題と方向性」の最後にコラムとして入れるというのは、さっき私をご説明した案である。

【委員】

- ・これはどちらかという、新たな基本計画の一つの要件として、このようなことを考える必要があるということで、この前段、本当はここに入れるべきである。

【部長】

- ・だから第2章と第3章のつなぎ目という位置づけで、ご説明したつもりである。

【委員】

- ・さっきの話はもっと前の、最初の方に入れてはどうかという話であった。

【部長】

- ・それは次に出てきた話である。最初にご説明したのは、第2章の後に入れようということであった。本当は前に入れてもよいと思うが、素案を作ってしまったので変えることは難しい。

【委員】

- ・第1章は、どちらかというと実施状況なので、第1章ではない。

【部長】

- ・実施状況の背景も含めて、両方兼ねている。

【委員】

- ・あまり無理しないで、適切な文章に少し作り直して、ここに入れてはどうか。

【部長】

- ・それでよろしいか。他になければ、次のコラム6について。これは委員に書いていたのだが、いかがか。
- ・荒川水系と多摩川水系をつなぐという部分もすごく大事な話である。今、用水は下水処理水100%か。

【委員】

- ・野火止用水は処理水である。

【部長】

- ・結局その話というのは、下水処理水を流す前にすでに生育しているということである

う。

【委員】

・江戸時代の話である。

【委員】

・東久留米の上流部の東村山の辺りに、やはり同じような植生がある。

【部長】

・だからとても大事な所である。下水のことは触れなくてもよいと思うので、これはこれでよろしいか。

【委員】

・写真についてはどうか。

【部長】

・もし他にも写真があればお願いしたい。

【委員】

・タマアジサイは、知っている人は普通のアジサイとの違いが分かるが、つぼみが玉の形になるのが特徴なので、その写真があるとよいのではないか。

【委員】

・つぼみのある写真と一緒に載せてはどうか。

【委員】

・その方がよいと思う。普通のアジサイだと思われてしまうのは、もったいない。

【委員】

・載せられれば、チゴユリも載せたいと思う。

【部長】

・ぜひお願いしたい。

・コラム7は事務局作成であるが、これは何かあるか。新型コロナウイルス感染症の記述が入ったということと、データが更新されている。

【委員】

・団体名の順番というのは、何かあるのか。

【事務局（コンサルタント）等】

・こちらは「かんきょう東久留米」に掲載されている、そのままの順番である。

【部長】

・そうすると「かんきょう東久留米」はどのような順番で載せたのかということになる。

【委員】

・“(順不同)”と入れればよいのではないか。

【部長】

・特にこだわりがなければ、“(順不同)”とする。

・コラム8は齋藤さんと委員で書かれたと思うが、何かあるか。これは「みんながこのまちの生きもの係」というのがキーワードなので、ぜひ残したいと思う。委員いかが

か。

【委員】

- ・皆さんがこれでよろしければ。

【部会長】

- ・次にコラム9について、委員から、第3パラグラフの「宅地の生物多様性を考慮した緑化が、気候変動への緩和策として望まれます」という一文が事務局案に追加された。これも問題ないと思うがいかがか。
- ・13ページのグラフについて、これは東久留米の近代史の中にあったもので、明治時代から2021年まで、だいたい5年おきのデータで更新したものである。地目別では、山林や畑がどんどん減って、宅地が増えているということと、世帯と人口の変化を表したデータであるが、これはいかがか。
- ・これは以前、推計に基づいた展望として出したものが入っていた。やはり過去の推移というのがあってもよいのではないかと思った。

【委員】

- ・これを新たに加えるということか。スペースはあるのか。

【部会長】

- ・資料編に入れてもよいと思うが、掲載すること自体はいかがか。将来の動向がコラム9で書かれているので、今後の全体の建付けからすると、国際的な視野に対して、将来は人口減っていくので、どうなっていくのかという流れがポイントである。過去の利用というのは、違う所にストレス、トーンがあるので、これは資料編に入れるということで、よろしいか。

【委員】

- ・凡例の「田」は水田か、田んぼか。

【部会長】

- ・これは「統計東久留米」での表現であり、水田のことであろう。分かることが目的なので、凡例を水田としてもよいと思う。

【事務局等】

- ・田んぼも水田も同じだとは思いますが、事務局としては、出典のとおり「田」のままの方が座りがよいのだが、いかがか。

【部会長】

- ・それでは出典のとおりとする。
- ・1970年までは水田があった。湧水は水温が17℃あるとはいっても低いので、昔は上流から用水で温めながら水田に引き込んでいた。暗渠化に伴って用水路がどんどんなくなっていき、水田を維持できなくなったというのが実際の姿である。

【委員】

- ・このグラフの説明はないのか。

【部会長】

- ・もし資料編に入れる場合は、説明を書く。

【委員】

- ・例えば 1980 年は、団地ができた頃ではないか。

【部長】

- ・世帯が 1975 年くらいから急に増えて、宅地が増えてきた。

【委員】

- ・そのことをどこかで触れてあると、興味が湧くと思う。

【部長】

- ・団地ができた頃は、公営住宅というか公共セクターが団地建設を始めた頃である。低湿地帯の地価が安いので、川の横あたりを買って、団地を建てた。実は河川場も色々な問題があった所である。

【委員】

- ・1960 年代の後半から一気に団地ができてきた。1965 年が団地という話で、今言った河川低地の話ではないと思う。東久留米では、高台に作られているものが多い。

【部長】

- ・東久留米ではそのとおりである。河川低地の話はあまり関係がなかった。

【委員】

- ・別に 1965 年がピークであることは、通念上皆さん分かっているので、表記せずこのままでもよいのではないか。もしくはグラフの下に、明治維新や関東大震災など大きな出来事を示すとか。

【部長】

- ・むしろ教材として読み取っていただく、考えていただくということであろう。それはこちらで調整して、委員の皆様へ報告する。
- ・他はよろしいか。次に事務局作成の新規コラムについて、事務局から説明をお願いします。

【事務局（コンサルタント）等】 新規コラム案説明

- ・東久留米市を取り巻く国や東京都の動向について。前回 SDG s と本計画の関わりについてお話をいただいたので、それも入れている。
- ・生物多様性と気候変動について。前段はコラムと被る部分もあるので、掲載についてはご議論いただきたい。
- ・公園のインクルーシブ遊具について。インクルーシブとは何かという補足説明のコラムである。
- ・ナラ枯れ・カエントケについて。市内で見られるナラ枯れ・カエントケの主な原因と特性について知っていただくためのコラムである。

【部長】

- ・遊具とカエントケのコラムはそれぞれの所に入れればよいと思う。
- ・国や東京都の動向については、ページがずれる。次のページは両面開きなので、そこ

の入れ方を工夫しなければならない。そもそも、そこでよいのかどうか。

【委員】

- ・この国や東京都の動向の内容ならば基本的に本文に入れるものではないか。違和感がある。このような記述で SDG s を入れるなら本文の中に入れての方がよいと思う。前回の議論を踏まえて、取り上げることにしたのであろう。それなら本文の中にしっかりと掲げることが必要だと思う。

【部長】

- ・それでコラムか資料編に入れるということで、ここに至っている。本文に入れるという話とは違うと思う。

【事務局等】

- ・非常によく分かるが、ここから本文に新たな表現や考え方を追記することは、この段階では極めて困難なので、前回申し上げた通り、SDG s については資料編で触れさせていただければと思う。

【委員】

- ・もちろん、そのような考え方もあると思うが、SDG s は重要であるという位置付けにするなら、これはきちっと最初から捉えているというような中身にしなければならないと思う。
- ・長期総合計画の時も SDG s 最後の話で出てきた。入れ方はいろいろあると思うが、どのように入れるかを考えた方がよいのではないか。

【部長】

- ・私の記憶では、委員は基本計画に SDG s を入れることに対して、ネガティブな発言をされていたと思う。入れるなら本文だろうという今の話とは違っていたのではないか。

【委員】

- ・そういう意味ではなく、この事務局案の記述のように市の計画として SDG s をきちっと捉えているということであれば、本文に入れないとつじつまが合わない。
- ・先ほど申し上げたように、コラムは全体像を知るためのものである。先ほどのナラ枯れの話のように、このようなこともあるという、少し別の次元の話が多い。

【部長】

- ・コラムの役割を論ずると、いろいろなご意見があると思うが、補足するという役割もある。

【委員】

- ・補足であって、本流ではない。

【部長】

- ・委員のご意見では、緑の基本計画で SDG s を入れるのはどうかということだったので、コラムで補足した。これではまずいのか。

【委員】

- ・前回の話の中で、SDG s はちゃんとやりましょうという話にまとまったと思う。私はあまり賛成ではないと言っただけである。

【部 会 長】

- ・その段階で、コラムなり資料編に入れるということになった。
- ・中身はともかく、SDG s に関しては、いずれかの形で補足的に扱うということであった。

【委 員】

- ・それならばコラムではなく、チェックリストのようなものを付けて、資料編でよいのではないか。

【部 会 長】

- ・そのような話もあったが、資料編で扱うということになった時に、資料編は結構ボリュームがある。乱暴かもしれないが、SDG s の話をもう少し加えて、例えば「資料4 緑の現況」のように、ナンバリング資料の一つという形で掲載してはどうか。「SDG s とは」など、表題は考えなければならないが。

【委 員】

- ・解説とチェックリストがあって、このように適用しているというのが資料編に入るといのが、前回の話であったと思う。

【部 会 長】

- ・承知した。資料編に入れる。作文は私がする。その前段の文章と、チェック用の表は入れてもよいか。
- ・今流布している日本語アイコンの訳を作るときに、意見を述べた。日本語のアイコンは体言止めで事柄はわかるが行動につながらないものだった。原文は「持続化可能性のために貧困をなくせ」というような命令形で act を求めている。そのことは作文にも反映させたい。
- ・前段の、例えば東久留米市との関係という形で、SDG s の一般解説をするのか、用語集にもあるのでどちらでもよいが、事務局と相談させていただきたい。
- ・事務局作成の生物多様性と気候変動について。事務局案が 14 ページの赤字で、委員がえんじ色の文字で、青字は私の文章であるが、これはまだやり取りの途中で、未処理である。時間切れで、まだ確認をしてない段階でここに出てきてしまっている状態であるが、いかがか。

【委 員】

- ・まず解説で気候変動の話はするということか。このコラムには何を書きたいのか。前のコラム 5 は持続可能な地域づくりと生物多様性のようなことが書かれていたが、ここでは何を訴えたいのか。

【部 会 長】

- ・もう少しメカニズムのような話になっているのではないか。委員の狙いはそうではないか。

【委員】

- ・それが両方コラムに要るのか。

【部長】

- ・それとも、この部分を、委員が修復して下さるといふ先ほどのコラムに、もう少し追い込むか。

【委員】

- ・どちらも論理が通らなくなってしまうと話が合わない。

【部長】

- ・この事務局案に「緩和」と「適応」という言葉が出ている。これは IPCC の議論を知っている人は分かるが、一般的には分からない。
- ・これをどのように入れるかという話とは別であるが、資料 2-3 別添 1 を見ていただきたい。日本の今の地方公共団体の実行計画について、事務事業編や地域施策編との絡みなど、全体像をつかんでいらっしゃる方が少ないと思うので、これを書いた。これは専門的な話になるので、資料編にはよいと思うが、これをどのように資料編に入れるか。
- ・ご理解いただきたいのは、まず、気候変動条約の中で、地球温暖化に対する防止の施策とフローの政策とストックの対策がある。京都議定書は、とにかく削減をしようというフローの議定書である。
- ・昔は条約一本でやっていたが、環境問題など南北で意見が対立するものは、基本合意を枠組み条約でセットして、フローを優先するとか、ストックを優先するとか、細かいところは議定書で補うというのが国際条約の流れである。
- ・京都議定書は、EU の意見が強く、削減から取り組もうということであったが、今回のパリ協定では、CO₂ の回収貯蓄や吸収源の収蔵庫の保護強化という、ストックの対策となっている。
- ・日本では、温対法と省エネ法と、後で出てくる適応法、この 3 本が対応しているが、IPCC の第 4 次から第 5 次、第 6 次の報告で出てきたのが、「緩和」と「適応」という言葉である。原文は mitigation と adaptation であるが、今、気候変動枠組み条約の内容は全部緩和策であるという位置づけにして、その両輪で、対処療法的に具体的に取り込んでいこうというのが適応策である。どちらかというとならざることは、こちらに入っているということである。
- ・緩和策は温対法で、適応策は気候変動適応法が対応している。国は温対法に基づいて地球温暖化対策計画を立て、適応法に基づいて気候変動適応計画を策定している。
- ・地域は温対法に基づいて、既に市でも作られている、実行計画の事務事業編を策定して、今度、区域策編を策定しようという流れである。
- ・国は適応法に関しても、気候変動適応計画策定を努力目標に置いているが、適応法の逐条解説を見ると、必ずしも独立した計画にする必要はなく、今の実行計画や環境基本計画などに入れ込むことも柔軟に対応できるということである。

- ・地域生物多様性戦略もそうであるが、入れ込んでよいということで、策定が求められているとすると、本当は緑の基本計画が一番ふさわしいということになるので、それを我々は理解して、あえて緑の基本計画をこれに向けてセットする必要はないと思う。
- ・東久留米市の緑の基本計画は、こういうことを知らずに進めているとは言われたくないので、この辺のことは分かっているという形にしたい。
- ・そこに生物多様性が気候変動と共に絡んできて、15 ページの新規コラムの青字の文章に繋がるという建付けになっている。私としては、ここは他の計画との関係で、具体的な話として入れたいと思っていたので、青字の文章はここに入れる必要はないと思っているが、これと同趣旨のことを委員がエンジ色の文字で入れて下さった。だからこれをどうするかということである。その前に説明なしに「緩和」と「適応」が出てしまっている。

【委員】

- ・部会長の青字の文章は、気候変動対策と生物多様性という感じである。
- ・事務局の赤字の文章は、これはこれでよいが、この解説も生物多様性を最後に締めているので、同じことを違う文章で言っている。
- ・それともう一つ、資料 2-3 別添 1 の中段に「日本では緩和策に温対法と…」の部分、省エネ法も入るのではないか。上段で説明している。

【部長】

- ・抜けていた。温対法は環境省で、省エネ法は経産省である。経産省はあくまで省エネで抑制であるが、環境省は温対法を使って削減をしたいということである。法改正に私も関わったが、基本コンセプトだけは譲れないということである。

【委員】

- ・日本は少し微妙な立場にある。今の森林吸収は固定化してしまっている。

【部長】

- ・吸収源の話は微妙な問題がある。いずれにしてもストック対策として、生物多様性の、まさに保全を増やすというところが絡んでいるので、その文章を構成している。
- ・生物多様性と気候変動についても資料編で受けるという形でもよろしいか。

【委員】

- ・よいと思うが、皆さんはいかがか。

【部長】

- ・16 ページの図は、11 月 11 日にグローバルカーボンプロジェクトが出した地球環境の炭素循環の図であるが、まだ日本語版が出ていない。国際学術連合のグローバルカーボンプロジェクトというのは、日本では国立環境研究所の筑波インターナショナルオフィスが事務局になっていて、この立ち上げの時に私も参加した。その時 2003 年に私が作ったのが下の図であるので、2003 年の時点から、今の 2020 年くらいの数値になっている。そのうち日本語版が出てくるので、それを入れて、循環の説明とともに

に、緑の位置づけをここで書きたいと思っている。

- ・資料編はお時間をいただいて、調整して進めさせていただき、委員の皆さんにお送りして見ていただくということによろしいか。

【事務局 等】

- ・事務局としても一つ、公園に関する取り組みを紹介させていただくにあたってのコラム、公園を取り巻く行政の変遷のようなものをコラムとして書かせていただいているので、また改めてお示しさせていただく。

【委 員】

- ・インクルーシブ遊具は、一つの例か。

【事務局 等】

- ・そのとおりである。インクルーシブ遊具は新たに出てきたものである。

【委 員】

- ・もしコラムにするならば、このインクルーシブ遊具を含めて、このような公園を目指していくのだというような話があるとよいと思う。

【事務局 等】

- ・インクルーシブ遊具を補完する形で、最終的に調整できればという考えである。

【委 員】

- ・このナラ枯れ・カエントケもコラムに入れるのか。ナラ枯れ・カエントケは今のトピックスとして非常に面白いのでよいと思う。これ以外のトピックスはあるか。
- ・他に面白い話があれば。あとは外来生物とか、最近どこかでイノシシが問題になっているが、この辺では何が問題になっているか。

【委 員】

- ・ハクビシンとか。

【委 員】

- ・ザリガニについては難しいか。

【事務局 等】

- ・原因の特定がまだできていないので、難しい。
- ・事務局の方でも、少し検討してみる。

【部 会 長】

- ・ザリガニの話はお聞きになったか。前回、ザリガニが大量死したという話があった。それは誰かが農薬を川に流したのではないかと、農業からということではなく、農業からの話かと思われたかもしれないので、中座されていたので念のためお知らせしておく。

【委 員】

- ・事象としては知っている。

【部 会 長】

- ・今のトピックス的なことも含めて、このようなコラムがあったらよいのではないかと

いうものがあれば、お寄せいただくということではいかがか。コラムの特性からすると、短い方がよいので、読みやすく短文で、誰が読んでも誤解のないようなものがあれば、お寄せいただければと思う。

【委員】

- ・きちっと書くのは、やはり資料編にしておいた方がよい。

【部長】

- ・きちっと書くのは資料編で、そちらは多少専門用語を入れていただいて、専門用語は用語集で解説して補うという建付けでよいと思う。
- ・先ほどの気候変動対策の資料 2-3 別添 1 の裏面に、審議会委員の文章がある。委員は東京都の水の専門家で、前回紹介したアンモニア態窒素の話や、水質調査などについて書いていただいた。これも自由に修文、加工いただいてもよいと思う。
- ・水質調査そのものに関して用語集がないので、委員に水質調査とアンモニア態窒素という二つについてご執筆いただければと思う。

【委員】

- ・アンモニア態窒素は本文に書いてないが、用語集でいきなりアンモニア態窒素が出てくるのはどうなのか。

【部長】

- ・施策の所では、環境基準ということに落ち着いたもので、それとの関連で入れてもよいと思う。

【委員】

- ・入れるとしたら、その環境基準に関わる話になるのではないか。

【部長】

- ・そこはお任せしたい。「かんきょう東久留米」で、硝酸態窒素系が平成 31 年から採用されている。
- ・用語集は、高校や中学の環境学習のインデックス代わりにも使ってもらえるような用語集を作ろうということで、幅広く用語を入れている。必ずしも全部の用語が本文に引っかかっているわけではない。だから今回も入れてよいと思う。むしろ「かんきょう東久留米」を読んでいて分からないことを、こちらの用語集で見てもらうということでもよいと思う。

【委員】

- ・この資料の「2.地下水」の上の段落に、窒素関係についての記述があり、ここでアンモニア性窒素が出てくるので、そのアンモニア性窒素を抜き出して、それがなぜ影響があるのかということをごここで解説してほしい。

【委員】

- ・書くとすれば地下水と湧水の方である。これは本当に出てきているので、湧水の成分としての用語の書き方になるのではないか。

【部 会 長】

- ・織り込んでいただくのもよいが、完全に辞書代わりに使えるという形の方がよいのではないか。そこはお任せしたい。

【委 員】

- ・アンモニアについてはすごく問題になってきていると思う。

【部 会 長】

- ・今は一緒になっている。アンモニア態窒素だけを分けて計測することもできるのか。

【委 員】

- ・アンモニアと硝酸と分けて計測できる。

【部 会 長】

- ・それは費用の問題か。

【委 員】

- ・簡易的なパックテストでもできる。窒素態を区するのは難しい。一番難しいのは硝酸で、専門の所でないと計測できない。

【部 会 長】

- ・やはり、アンモニア態窒素だけの統計を取ろうとすると、分析に相当お金がかかりそうだということであろう。承知した。
- ・それでは今日のコラムと用語集については、今回短時間だったので、またお目通しいただいて、ご意見があれば事務局の方に寄せていただきたい。
- ・次回に、ある程度ライン上で調整が終わったもので、確認していただくということによろしいか。

【委 員】

- ・次回は、一通り全体を見るのか。

【部 会 長】

- ・スケジュールの話やパブリックコメントの話もあるので、事務局から今後の日程について、説明をお願いします。

【事務局 等】 参考資料 1 説明。

- ・12月中旬に第9回、年明け1月中下旬に第10回を開催。
- ・12月16日の午前と午後、19日、22日、23日の午前に会議室を確保。
- ・パブリックコメントは12月13日まで。集約したものをお示しする。

【部 会 長】

- ・併せて資料編と用語集はそれまでに調整したもので一緒に見ていただいて、パブリックコメントを用語集や資料編で受けた方がよいという話も出てくると思うので、混乱しないように、次回までに資料編もできればと思う。

【事務局 等】

- ・次回はパブリックコメントの話を中心にさせていただき、事前に資料を構成したものをお送りするので、資料編やコラムに関しても、事前に御目通しいただくような形で

お願いしたい。

【部 会 長】

- ・それでよいと思う。
- ・（各委員の予定を調整した結果）次回は12月23日金曜日の午前とする。

【事務局 等】

- ・来年1月の予定であるが、現段階では1月16日の週、18日、19日、20日辺りで第10回の開催ができればと考えている。

【部 会 長】

- ・私は18の午前は都合が合わないが、例えば午後2時くらいにしていいただければ大丈夫である。皆様はいかがか。

【事務局 等】

- ・（各委員の予定を調整した結果）それでは1月18日午後2時で、ご予定いただくということによろしいか。

【部 会 長】

- ・次回は12月23日金曜日の午前、時間は9:30とする。その次は1月18日水曜日の14:00ということで、よろしくお願ひ申し上げる。

【委 員】

- ・パブリックコメントについて、「広報ひがしくるめ」には、パブリックコメントを書くことができるのは市民だと書いてあったが、市民というのは住民票を出している市民ということか。同僚が書きたいと言っていた。以前は在学、在勤でもよかったと思うが、その後変わっていないかどうか確認したい。

【事務局 等】

- ・確認する。

【部 会 長】

- ・EUの環境に関するオース条約では、全ての関心を持った人を市民とするという定義があって、行政界ではないというのが国際的な流れである。
- ・他はよろしいか。なければ、これで第8回検討部会を終了する。ご多用中ご出席いただき感謝申し上げます。

以 上